

JICA 日系社会シニア・ボランティアの小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

アルゼンチンは今、夏です。サルタは亜熱帯に属しているため、冬でも暖かいのですが、12月に入るとぐっと暑くなり、スコールにもなります。そんなとき、一人の学生に『サルタの夏は暑いですね』と言ったところ、『いいえ、先生、今は春です』と言うのです。夏は12月21日からと決まっているそうです。念のため他の生徒にも同じ質問をしたところ、やはり春だと言います。こんなに緩い時間割で動いているサルタで、12月21日にならないと夏じゃないというのは、面白いですね。

そういえば、12月に入っても一向にクリスマスの飾りつけがされません。日本だったら、12月なるとたん、あちこちでクリスマスの飾りつけが始まるんですが……。住人のほとんどがクリスチャンのサルタでどうも変だと思っていたところ、やはり生徒が教えてくれました。「先生、教会からの声が聞こえますか。サルタでは、今日、12月8日からクリスマスの準備をします。」12月8日は『聖母無原罪御宿りの日(受胎告知の日)』で祭日になります。生徒の言葉どおり、次の日から一斉にクリスマスの準備が始まりました（と

まちなか

も、町中の飾りつけは日本よりずーっと質素です）。



こちらでは、クリスマスツリーの下にキリストに関連した人形が飾られます。これらの人形は苔の上に飾られるため、花屋や露店で苔が売られています。人工苔もありましたが……。所変われば品代わるですね。



12月23日、ミラグロという行事で以前ご紹介した教会で、クリスマスコンサートがありました。たくさんの方が（小さな子供も一緒に）教会を訪れ、ヘンデル作曲のメサイヤを楽しみました。教会中に美しい歌声が、荘厳にかつ力強く響き渡りました。このサルタは音楽の都と言っていいほど無料で音楽を楽しめる機会がとても多い町です。



12月24日のクリスマスイブは、前回ご紹介したまり子さんから招待され、まり子さんのご家族と一緒に過ごしました。持ち寄りパーティで、私の担当は巻きずし10本とワイン1本。（まり子さん曰く『あなたが巻き寿司を作るんなら、私はチャーハンを作るわ。今までは、両方ともわたしが作ってたのよ』。アルゼンチンに着て60年以上たってもやはり自慢料理は日本料理なんですね。）食卓に並んだご馳走をおいしくいただいているうちに真夜中の12時になり、全員で“Feliz Navidad（メリークリスマス）”の乾杯。雰囲気圧倒され、私も夫も思わず「A Happy New Year!（あけましておめでとうございます）」とってしまいました(笑)。

そして、乾杯が終わるやいなや、花火のあがる音がしてきました。家庭用とは思えない大きな花火があちこちで上がりました。こちらでは、クリスマスを祝う花火は、市や町が行うのではなく、それぞれの家で勝手にあげて楽しめます。

美味しいご馳走と花火を楽しんだあと、家にたどり着いたのは夜中の2時半。どんどん夜行性人間になっていくようで、すこし怖いです。



サルタで一番のクリスマスツリー